

全般3か月予報（5月～7月）解説資料

平成25年4月25日
気象庁
地球環境・海洋部

1. 予想される向こう3か月の天候

5月 北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東日本日本海側と西日本では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

6月 北日本と東日本日本海側では前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

7月 北日本と東日本日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東日本太平洋側と西日本では、前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

2. 向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）

気温	3か月			5月			6月			7月		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	30	30	40	30	40	30	30	30	40	20	40	40
東日本	30	30	40	30	40	30	30	30	40	20	40	40
西日本	30	30	40	30	40	30	30	30	40	20	40	40
沖縄・奄美	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30

降水量		3か月			5月			6月			7月		
		少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	40	30	30
	太平洋側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	40	30	30
東日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	40	30	30
	太平洋側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	40	30	30
西日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	30	40	40	30	30
	太平洋側	30	40	30	30	40	30	30	30	40	40	30	30
沖縄・奄美		30	30	40	30	40	30	30	30	40	30	30	40

（参考）平年の晴れの日数（日）

（1981～2010年平年値）

	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高松	福岡	鹿児島	那覇
5月	16.7	16.2	17.4	15.5	17.7	17.7	18.4	18.3	17.3	15.9	13.4
6月	15.1	11.3	14.3	10.7	12.6	13.7	14.3	14.6	13.1	10.7	15.3
7月	13.0	9.7	14.2	12.1	14.2	16.5	15.9	17.7	15.7	17.9	24.1

注：季節予報では「日照率40%以上の日数」を「晴れの日」の日数として用いています。日照率は、1日の日照時間を可照時間（日の出から日の入りまでの時間）で割った値です。

3. 数値予報による海洋と大気の流れの予想（次ページ図1、図2、図3参照）

海面水温平年差（図1）は、インドネシア付近から太平洋赤道域中部では正偏差（平年より海面水温が高い）、インド洋と太平洋赤道域東部では負偏差だが、エルニーニョ監視海域の平年差は小さく、予報期間はエルニーニョでもラニーニャでもない平常な状況が続く見込み。熱帯の降水量平年偏差（図2）は、海面水温偏差に対応してインド洋東部から太平洋赤道域中部にかけて平年より多いと予想される。また、日本への影響が大きいフィリピン付近でも対流活動（積乱雲の発生・発達）が活発で降水量が多いと予想され、日本付近の海面気圧（図3）は正偏差（平年より気圧が高い）、沖縄より南の海上では負偏差が予想されている。これらは太平洋高気圧が日本付近で北側を中心に平年より強く張り出していることを示しており、3か月平均気温は北日本から西日本にかけてやや高温傾向が見込まれる。ただし、5月は、亜熱帯ジェット気流が日本付近でやや南へ蛇行するため、気温は全国

的に平年並が見込まれるが、寒気の影響を受ける時期があると予想される。6月は、フィリピン付近の対流活動がやや活発となる影響で、日本の南海上に高気圧が平年より強く張り出すため、全国的にやや高温傾向で、西日本と沖縄・奄美では南からの湿った気流が流れ込むため、やや多雨傾向と予想される。7月は、フィリピン付近の対流活動が活発となることから、太平洋高気圧が日本付近で平年に比べ北への張り出しが強まるため、北日本から西日本にかけて高温傾向が見込まれる。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧の張り出しは平年程度から平年より弱いと見込まれ、降水量はやや多い傾向が予想される。

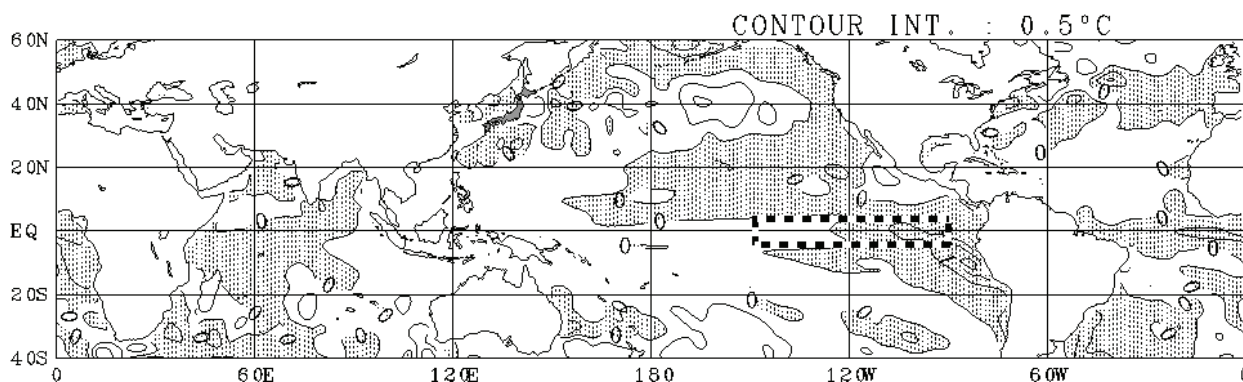


図1 海面水温平年差の予想図 5～7月の3か月平均。等値線間隔は0.5°C。負偏差に影。

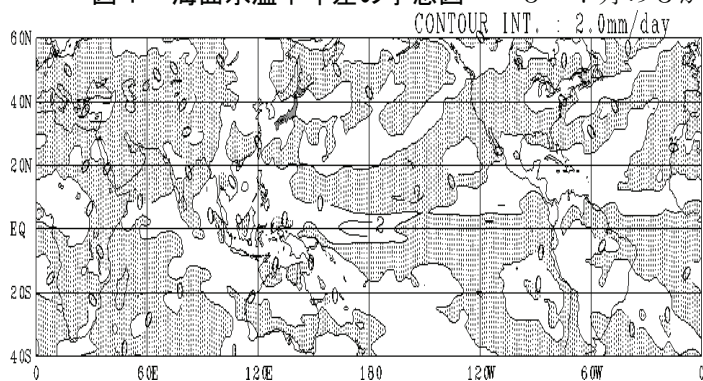


図2 降水量平年偏差の予想図 5～7月の3か月平均。等値線間隔は2.0mm/日。負偏差に影。

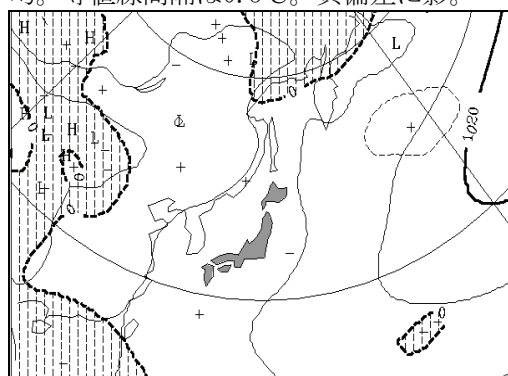


図3 海面気圧と平年差の予想図。5～7月の3か月平均。等値線間隔は4hPa。負偏差に影。

4. 最近の天候経過（4月）（図4、図5参照）

天候経過：日本付近は数日の周期で低気圧が通過し、上旬は低気圧が急速に発達することもあった。低気圧の通過後は、西日本を中心に大陸からの冷涼な高気圧に覆われた。このため、全国的に天気は数日の周期で変わったが、北・東日本では低気圧の影響が強く降水量が多くなった。20日までの平均気温は、東日本で平年を上回ったほかは平年を下回った。降水量は、北・東日本と沖縄・奄美で平年を上回り、西日本で平年を下回った。**北半球500hPa天気図：**北半球では偏西風の蛇行が見られ、日本の西で偏西風が南に蛇行し、日本付近は東西に広がる負偏差だった。

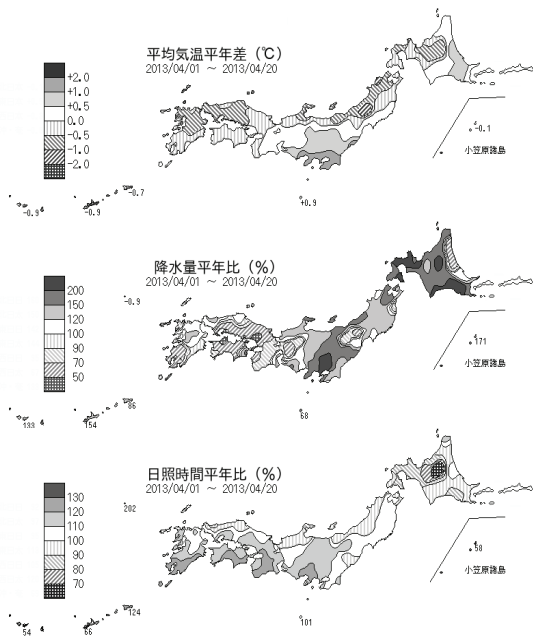


図4 2013年4月1～20日の平均気温、降水量、日照時間の平年差（比）の実況（速報値）

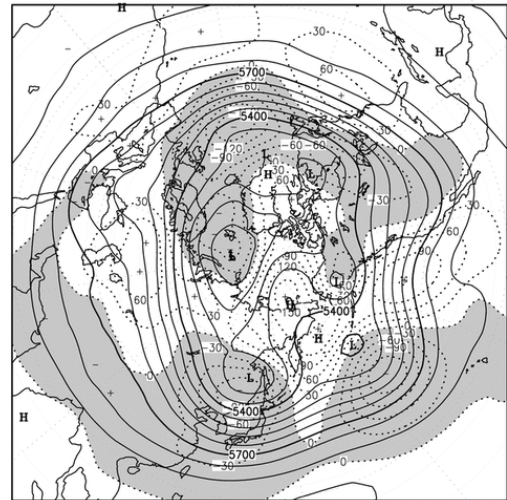


図5 500hPa高度と平年差の実況図
2013年4月1～20日の平均 等値線間隔は高度（実線）60m、偏差（破線）30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応。

5. 暖候期予報の見直しについて

最新の天候経過と新しい予測資料をふまえ暖候期の天候について検討しましたが、2月25日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。